

地方独立行政法人山梨県立病院機構 第2回理事会 議事録

1 日 時 平成25年9月19日(木)午後4時~午後5時15分

2 場 所 県立中央病院 2階 理事長室

3 出席者 理事長 小俣政男

理 事 土屋幸治、藤井康男、篠原道雄

監 事 早川正秋、加藤隆博

(欠席者 なし)

(出席者 理事長・理事 計4名。今理事会は定足数を満たし成立した。)

4 会議次第

(1) 理事長あいさつ

(2) 議 事

**規程改正(案)**

事務局 各概要について説明

(資料1「規程改正案の概要」を読み上げ。)

「職員給与規程」については、職員の待遇改善及び休日や夜間の医療体制の強化を図るため、一部を改正する。

改正の内容は、特殊勤務手当に呼出手当を新設することとした。これは、救急医療を行うための呼出に備えて自宅等において待機を行うことを指定された職員が、緊急の呼出しにより勤務を命じられ、緊急の手術等の処置に1時間以上従事した場合に手当を支給するものである。

**採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。**

**平成26年度予算編成要領(案)**

事務局 各概要について説明

(資料2「平成26年度予算編成要領(案)」を読み上げ。)

平成22年4月の法人移行以来、3カ年の財務状況については、

経常収支が平成22年度は14億円余、平成23年度は15億円余、平成24年度は18億円余と、大幅な黒字となり、建設積立金を含め28億円余の積立金を保有するなど健全性を維持している。

平成25年度においてもドクターヘリ運航に伴う救命救急科の増収などにより医業収益の増加が見込まれている状況である。

平成26年度は、5カ年にわたる第1期中期計画の総仕上げの1年であるとともに、平成27年度から始まる第2期中期計画に向けた取り組みが求められる1年となる。

来年4月からは、消費税の税率が新たに5%から8%に引き上げられることが予定されており、新たに3億円弱の税負担が見込まれているが、引き続き収入の確保や費用削減に重点を置くとともに、新規需要に柔軟に対応したい。

**採決の結果、理事等から異議がなく、原案のとおり可決された。**

### (3) 報告

#### 評価委員会による業務実績評価書

事務局 各概要について説明

(資料3「平成24年度地方独立行政法人山梨県立病院機構業務実績評価結果(概要)」、資料4「平成24年度地方独立行政法人山梨県立病院機構業務実績評価書」を読み上げ。)

地方独立行政法人法に基づき、損益計算書などの財務諸表、項目別自己評価について、評価委員会のヒアリングが行われ、「全体評価」と「項目別評価」からなる業務実績評価書が同委員会から知事に報告された。

「全体評価」は、「平成24年度の中期計画の実施状況は順調である」との評価であった。

「項目別評価」は、41項目S～Dの5段階のうち、評価S「特に優れている」は、昨年度の2項目から2項目増えて4項目であった。昨年度からの2項目は、経常利益が引き続き黒字となったこ

と、その結果、退職給付引当金（18億円）を早期に解消できたことであった。また、今回新たに評価された項目は、ドクターヘリの運航開始により、救命率の向上を達成したこと、医師の育成・確保に積極的に取り組み、定員どおりの研修医を確保できたことであった。

評価A「優れている」は8項目であった。総合周産期母子医療、がん医療などの政策医療への積極的な取り組み、7対1看護体制を維持するため複数回の採用試験を実施するとともに、職場環境の整備のため院内保育所を開設したことなどが評価された。

一方、評価C「劣っている」及び評価D「著しく劣っている」はなかった。

## 中央病院・北病院の稼働状況

事務局 各概要について説明

（資料5「全科 入院・外来 稼働額比較」を読み上げ。）

中央病院は、今年度の稼働額が7月まで順調に推移して8月を除く全月で前年同月比が増であった。入院、外来別に数値を出しても同様である。平均在院日数についても順調に減少してきている。入院患者数、外来患者数及び入院、外来の単価については、昨年度とほぼ同様である。

北病院は、稼働額は病棟再編工事が終わったことにより、順調に推移している。同じく入院収益も順調に伸びている。また、平均在院日数は大きく減少している。これは病棟再編工事の関係で長期入院患者を一部民間病院にお願いしたことが影響していると思われる。入院患者数、外来患者数については、新たな病棟の稼働により増加している。単価については、入院・外来ともに上昇している。

## （4）その他

事務局 次回の理事会はいつ開催すべきか。

一 同 - 12月17日の開催で合意 -